

加曽利かわらばん

2023. 3 月号

第2回
ワークショップの
結果報告



第2回加曽利貝塚と新博物館をつなぐルート開発に関するワークショップを、令和5年2月18日(土)14時00分～16時00分@加曽利貝塚博物館にて実施しました。参加者16名による活発な意見交換がなされました。

01 当日のプログラム



1 開会の挨拶を文化財課の蚊谷さんから頂きました。

2 今回ワークショップの目的を事務局から説明しました。

3 ルート案と、3つの視点で収集した事例について事務局から説明しました。

4 グループにわかれてテーマについて話し合いました。

5 グループの意見を代表者が発表した後、本日の意見を簡単にまとめ共有しました。

02 グループに分かれた話し合いの内容

新設ルートの設え・工夫点に対する意見交換

A班



〈景観〉

・坂月川沿いの自然はできるだけ現状維持
・自然を重視した景観が必要、自然と調和する材料やデザイン(堤防上の柵も木を使用したほうがよい)

〈回遊・散策〉

・橋の設置は自然環境に影響の少ない工法で
・樹木、植物、鳥、花等の紹介
・自然との調和・共存、自然を活かしたレクリエーション
・縄文時代の風景をVRで再現

〈団体対応・見学ルート〉

・バスtoバスの利用(バスで移動→見学→バスで移動)
・2つの駐車場の使い分け(公園周辺の入出口)
・都賀駅からのシャトルバス運行
・堤防上は、団体客とランニング利用等と重なるので配慮してほしい

B班



〈景観〉

・自然との調和(自然景観を残す、自然との調和を考えて派手にしない)
・全体的な景観は縄文から続くもの
・〈回遊・散策〉
・橋の上に溜まり、バードウオッチングなどができると、橋の幅を広く(60程度)
・QRコードやアプリを使って楽しく学べる子どもも楽しい(かそりーぬも活用)

〈その他〉

・自然を守るサンクチュアリゾーンがあると共存できる
・ボランティアに頼らず維持管理できる方法を考える必要がある
・夜間の管理も考えていかなければいけない(防犯も含む)

〈団体対応・見学ルート〉

・わくわくしながら貝塚に入っていくように、貝塚入り口部分にモニメントとしての堅穴住居や、船着場に丸木舟を設置する

C班



〈景観〉

・加曽利らしい景観
・新たに景観を作る意気込みが必要

〈回遊・散策〉

・動線を含み全てが展示物、博物館となるような仕掛け、工夫をクリスロ等の活用
・バス移動を充実
・既存の仮設橋を利用すれば、周遊できるコースができる

〈団体対応・見学ルート〉

・単に階段で降りるだけでなく、楽しく安全に移動できる計画としてほしい

・加曽利貝塚は屋外施設である特別史跡がメインであり、これをどう効率よく見てもらうか

〈その他〉

・価値のアピール
・全国に誇れる博物館と史跡にできるよう、目を引く要素があるとよい

03 話し合いのまとめ

各グループの意見を共有することで、共通のキーワードが見えてきました。

①景観

- ・自然と調和する景観・デザイン
- ・自然保全との両立、自然環境に影響が少ない橋
- ・いまある眺望を活かす、加曽利らしい景観づくり
- ・新たな景観をつくるという視点

②回遊・散策

- ・樹木、植物、鳥、花等の紹介
- ・QRコードやVR、アプリを用いた、子供たちも楽しく学べる情報提供の方法
- ・周遊性を確保できるよう、既存の仮設橋を恒久橋化
- ・クリスロの活用やバス移動の充実等、補完交通機能を確保

③団体対応(見学ルート)

- ・駐車場の使い分けによる利用性の向上(バスtoバスによる時間短縮)
- ・ワンウェイの見学ルート等)
- ・都賀駅からのシャトルバス運行
- ・わくわくしながら貝塚に入っていく工夫(見て楽しいもの、モニメント)

これらの意見を踏まえて、加曽利貝塚と新博物館をつなぐルートについて、歩道橋および園路の設計をすすめていきます。

04 今後のスケジュール

令和5年度は、歩道橋や園路の設計、設計のために必要な調査(地質調査、測量等)を実施していきます。